

MWNT-7 2mg/m³ 4 週曝露一回復群の免疫組織化学的解析

図 15 肉芽腫性変化の免疫組織化学的解析

- ・ 4 週曝露後に回復期間を置いて、実験開始から 3 ヶ月後に計画解剖した動物の気道終末部や肺胞管周囲で局所性線維化を伴う結節状病変が好発した。
- ・ 結節状病変は、内部に異物巨細胞のように多数の核が MWNT-7 の周囲を取り囲むものも認められ、こうした病変を従来報告されている診断名に合わせて肉芽腫性変化と診断した。
- ・ この肉芽腫性変化を免疫組織学的に検索すると、抗マクロファージ抗体 (CD-68) に概ね陰性であり、陽性であったとしても断片状 (debris) であったことから、この肉芽腫性変化は一見、マクロファージ又は類上皮となる病変の様相を呈しているが、マクロファージとしての機能は保有していないと考えられた。2 型肺包上皮の抗体 (SP-C) とクララ細胞の抗体 (CC-10) には陰性であった。
- ・ 抗 vimentin 抗体では MWNT-7 が存在する部位とその周囲に CD-68 よりも強い性反応が認められ (赤矢印)、線維形成による MWNT-7 の埋め立てを行っていると考えられた。
- ・ この線維形成は当該部分に線維芽細胞の増加を認めないことから、肉芽腫様変化を形成する上皮性細胞が膠原線維を産生している可能性が考えられた。

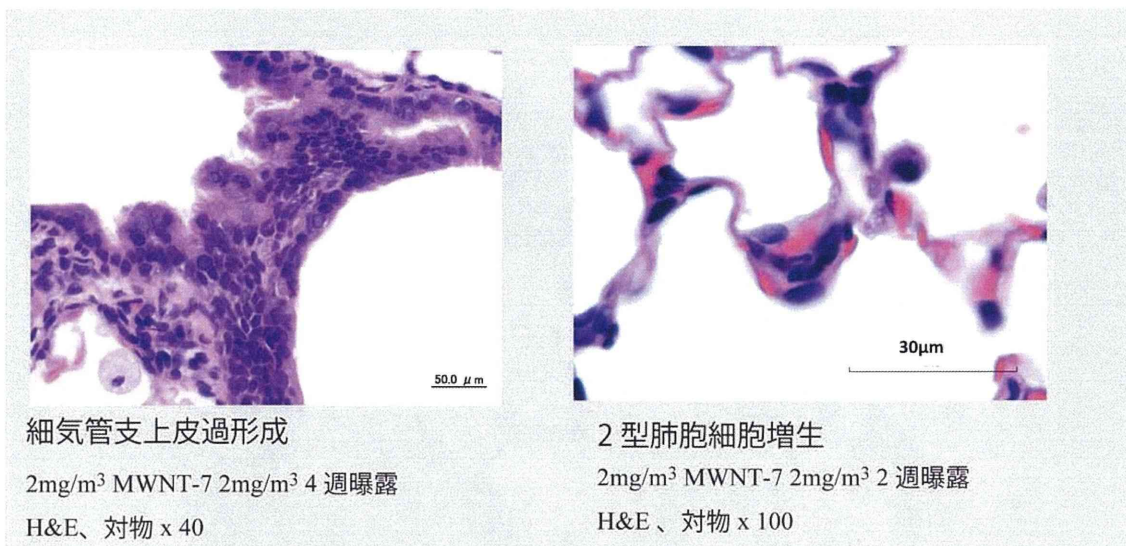


図 16 2 週、4 週でみられた肉芽腫性変化での増生細胞に類似した変化

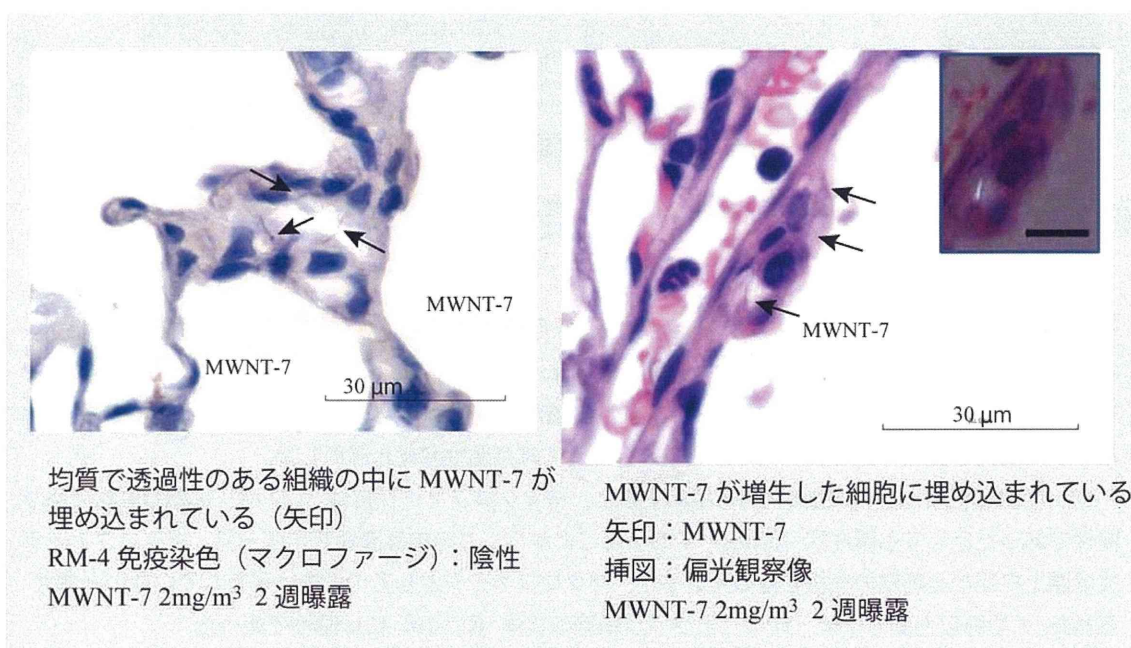


図 17 肺胞域での増生上皮による MWNT-7 の被覆

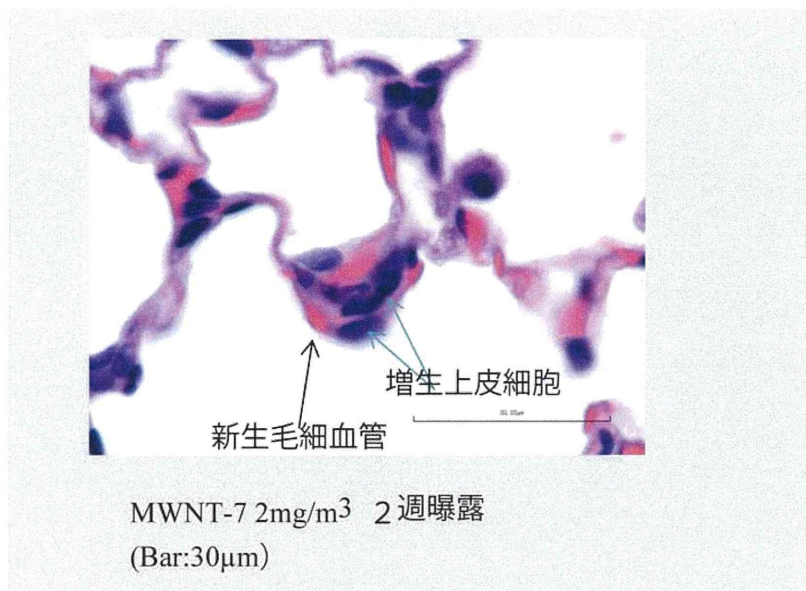


図 18 肺胞域における上皮の増生と血管新生

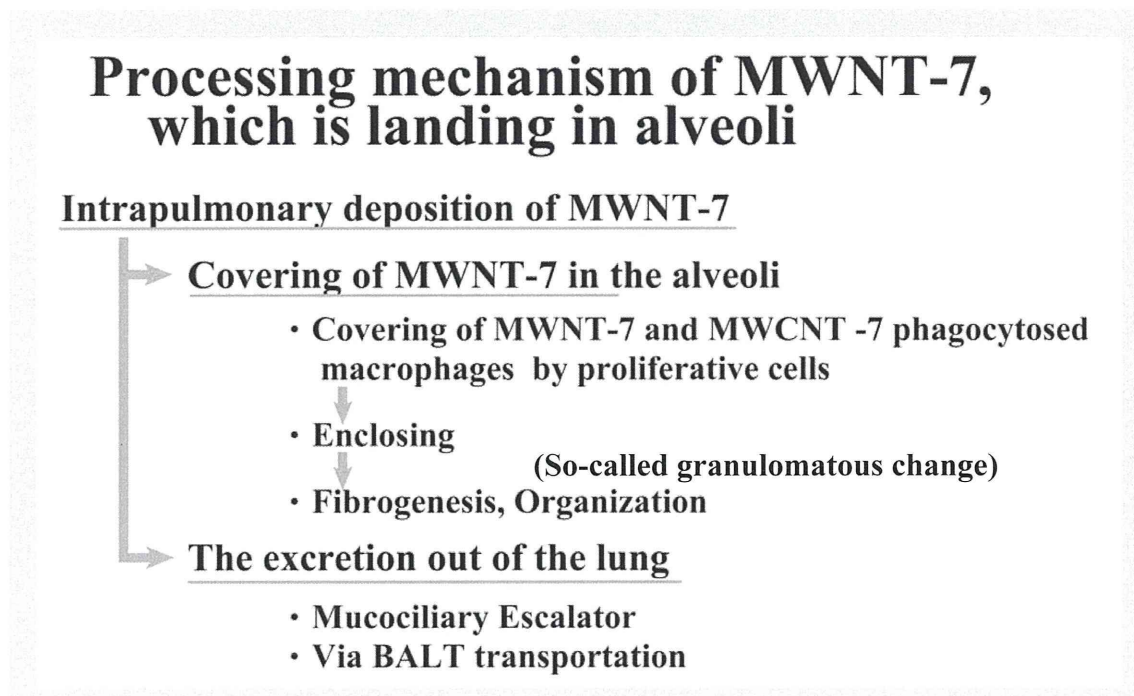


図 19 まとめ

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

本年度該当なし。

IV. 研究成果の刊行物・別刷

本年度該当なし。

